

第 107 回 企業活性化分科会・議事録

<第 107 回 2018 年 6 月 23 日 (土) 時間：13：30～17：00 於：専修大学 (神田校舎) >

参加者：井端、木村、鈴木、高市、但野、夏目、宮川 (7 名)

1. テーマ 1：伊豆シャボテンリゾートの分析 (継続企業の前提に関する注記の記載を解消した企業の研究) (報告者：夏目拓哉、配付資料：9 枚)

本報告は、継続企業の前提に関する注記の記載を解消し伊豆シャボテンリゾートについて分析したものである。伊豆シャボテンリゾートが G C 注記解消前後の収益性分析をおこない、収益性分析の観点から G C 注記解消に至った要因と企業の再生した要因を分析した。

2. テーマ 2：セーラー万年筆の分析 (継続企業の前提に関する注記の記載を解消した企業の研究) (報告者：木村充宏、配付資料：18 枚)

本報告は、継続企業の前提に関する注記の記載を解消したセーラー万年筆(株)について分析したものである。セーラー万年筆が継続企業の前提に関する注記を解消にしたが、本当に企業再生を果たしたのかを検証した。検証の結果、セーラー万年筆は自前のできることをやり尽くした感があり、十分に再生を果たしていないことを指摘した。

3. テーマ 3：グラフによる売上債権異常発見法 (報告者：井端和男、配付資料：17 枚)

4 月分科会における報告に続き、グラフによる売上債権異常発見法の報告を行った。倒産会社や不適正会計処理を判明した企業の四半期データから、売上債権の異常変動や分布例を示し、売上債権変動パターンによる売上債権の異常を発見する手法を提案した。